

仙台のあゆみと文化財

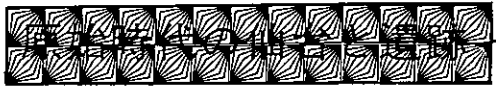


文化財愛護シンボルマーク



東光寺の磨崖仏

鎌倉時代の作で、伝説によると慈覚大師一夜の作といわれ、東光寺のものを宵の薬師、利府町菅谷のものは夜中の薬師、湊浜を夜明けの薬師という。仙台で唯一の磨崖仏である。



縄文・弥生時代

仙台市内に人が住みつき始めたのはいつ頃か。マンモスのいた氷河時代に、仙台にも人が住んでいたことが知られている。青葉山や三神峯の赤土中から当時の打製石器が発見されているのである。この時代は土器がなく、石器も打製のものばかりで「旧石器時代」と呼ばれている。

1万年くらい前になると、きびしい氷河時代も終り、温暖となり、自然界の動植物もいろいろ豊富になった。このころから縄文土器が作られるはじめ、弓矢や磨製石斧など生活用具にもいろいろのものが使われはじめた。この時代を、使われた土器から「縄文時代」と呼んでいる。三神峯遺跡や上野遺跡は、この時代の「ムラ」である。この時代の「ムラ」は、日あたり、水の便よく、動物が多く住む山に近い小高い丘の上に作られることが多かった。

2000年くらい前になると、中国大陸から、西日本を経て、東北にも稲作が伝わり、そのために人々は平野部において定住生活を開始する。この時代が「弥生時代」であり、南小泉遺跡、西台畑遺跡などは当時の「ムラ」である。しかし、この時代は、稲作技術もまだ発達しておらず、狩猟採集の生活が相変わらず行なわれて、人々の間の貧富の差もさほどなかった。

◆三神峯遺跡（富沢字金山，三神峯公園内）

縄文時代前期（5000～6000年前）の、現在まで仙台市内で最も古い「ムラ」の跡である。遺跡は、三神峯公園のほぼ全域を占めており、これまで行なわれてきた発掘調査によって、当時の住居跡のほか数多くの縄文土器、土偶、石器などが発見されている。



三神峯遺跡

◆上野遺跡（富田字上野）

八坂神社裏の、標高約25mの丘陵上で、現在は畑になっている。縄文時代中期（4000年くらい前）の「ムラ」の跡であるが、正式の調査は行なわれたことがない。広範囲にわたり、土器、石器が散布している。

時代	紀元	歴史事項	
早期	前8000	三神峯遺跡 上野遺跡 土器使用開始 狩猟採集の生活 集落 呪術	
前期	前3000		
中期			
後期			
晩期	0		
中期	200	南小泉遺跡（～古墳時代） 西台畑遺跡 藤田新田遺跡 登呂遺跡	稲作の開始 金属器使用の開始
後期			

➡南小泉遺跡（南小泉霞の目飛行場周辺）

霞の目飛行場を中心として、その西側に、広範囲にわたり営まれた弥生～古墳時代（1900～1600年前）の大規模な「ムラ」の跡がある。昭和11年頃、霞の目飛行場拡張工事の際、多くの住居跡と遺物が発見され、学界で注目された。（出土品、東北大学保管）

➡西台畑遺跡（郡山二丁目）

国鉄長町駅の東、伊勢煉瓦工場内の地表下2～3mの深さの所から、かつて工場建設中に弥生式土器などが出土し、当時の「ムラ」であったと考えられる。（出土品、東北大学保管）

天然記念物（樹木）

☒ 苦竹のイチョウ
国天然記念物
（銀杏町）

国立病院北東100m
くらいの所にある。
高さ約32m、太さ最
大の所で8.3mもあり、
仙台市では最大のイ
チョウである。
多数の乳柱が垂れさ
がり、「乳イチョウ」
とよばれる。



☒ 朝鮮ウメ・国天然記念物（古城二丁目、宮城刑務所内）

伊達政宗が朝鮮に遠征した際、もち帰ったといわれ、通称「朝鮮ウメ」といわれる。根元から幹が水平に出る臥竜梅で、この種の梅としては相当の巨木である。



古墳（飛鳥・大和）時代

紀元4世紀ごろになると、鉄製品が普及し、農具の発達改良などもあって、稲作が発達し、一方、貧富の差もではじめまた、水利権などをめぐって複雑な社会関係が生じる。こうした時期に古墳が作られ、この時代を「古墳時代」と呼ぶ。「古墳」とは、4世紀ごろに出現し、7～8世紀ごろまで存続した豪族の墳墓である。それは、はじめは土を高くもりあげた形で出現し、最後には、崖面に作られた横穴で終る。土を盛り上げたものには、前方後円、円、方などいろいろの形がある。このころ、近畿地方では、大和朝廷が成立し、仁徳天皇陵などの大古墳が作られている。そこでこの時代を「大和時代」「飛鳥時代」と呼ぶこともある。

仙台市では、現在まで20基以上の古墳が確認されている。（内、横穴古墳群5ヶ所）その中で、遠見塚古墳は、まさしく、仙台平野の支配者の墓としてふさわしい規模の古墳である。これらの古墳は、仏教の伝来による火葬の普及、政府から厚葬禁止令（大規模な墳墓を作ったりすることを禁じた命令）が出たりして、8世紀ごろ衰退した。

➡遠見塚古墳・国史跡（遠見塚一丁目、仙台バイパス沿い）

遠見塚小学校の東側にある、5世紀前半の大古墳。全長110mの前方後円墳で、東北では、名取市雷神山古墳などに次いで、第3位の規模を誇る。当時の仙台地方の大豪族の墓であろう。



遠見塚古墳

➡兜塚古墳（根岸町、宮農高校庭内）

宮農高校庭北東隅の道路沿いにあり、兜をふせたような形の古墳。5世紀後半の豪族の墓。円墳とも、前方部を道路で切られた前方後円墳ともいわれる。現存の大きさは50mある。以前、円筒はにわが発見された。

➡法領塚古墳（南小泉字一本杉、聖ウルスラ学院構内）

ウルスラ学院北東隅の道路沿いにある。直径約30mの円墳。6世紀頃の豪族の墓。古墳の内部は横穴式石室で、現在開口している。昭和45年の発掘調査の際、石室内部から鉄製馬具、青銅製品破片などが発見された。

時代	紀元	歴史事項
前期	300	（農業の普及、発達）
古墳 中期 （大和） （飛鳥）	400	遠見塚古墳 応神、仁徳天皇陵 兜塚古墳（ムラの発展、クニの成立）
	538	仏教伝来
	593	聖徳太子摂政となる 法領塚古墳 法隆寺
後期	645	大化の改新 善応寺横穴古墳群 高松塚古墳

➡善応寺横穴古墳群・市史跡（燕沢字西山，善応寺内）

善応寺裏山の斜面一帯にある。7～8世紀ごろの、仙台東部地方の豪族の墓であろう。総数は、埋没しているものを含めて100基前後と見られる。

〈解説：古墳の内部と副葬品について〉

古墳の内部構造についてはいろいろあるが、大別すれば、石室の有無ということになる。石室のないものは、古い時期に多く、土を掘りこんで木棺、石棺を直接納めたものが主である。石室には、竪穴式石室と横穴式石室とがあり、前者の方が古い。石室の内部には、遺体を納める木棺か、石棺が安置される。棺の中には、死者の副葬品として、鏡、玉、剣などが納められることがある。東北の古墳では、副葬品はあまり多くない。



善応寺横穴古墳群

天然記念物（動物）

☒ 広瀬川のカジカ

雄は4cm、雌は7cm程の平たい体型をした水のきれいな溪流にすむ灰褐色のカエル。夏になると雄は雌を求めて特有の美しい鳴声をするため、「初夏の風物誌」として親しまれている。昭和43年以来3度にわたる放流の結果、松淵、市民プール、追廻住宅付近で良く生息しているようである。

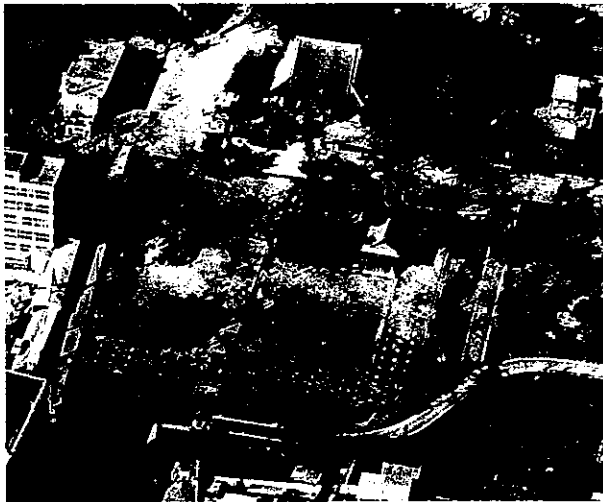


奈良・平安時代

645年の大化改新後、中央政府は、全国の土地、人民を直接支配する政策をとり、東北地方にも進出しはじめた。そして、奈良時代のはじめには、東北支配の根拠地としての多賀城が建設された。東北地方は、かつては「蝦夷」の住む国として、野蛮な、生産力の低い国と考えられていたこともあったが、実際は、すでに弥生時代に稲作が開始され、また大規模な古墳が営まれるなど有力な大国であり、地域の豪族の力も強大であった。したがって、多賀城の建設後も、中央政府の東北支配は、地元の反抗などのため容易に進まず、一時は、地元の反乱によって多賀城が攻めおとされることもあった。しかし、平安時代のはじめになって、坂上田村麻呂将軍などにより、やっと東北にひととおり中央政府の支配の手がおよんだ。陸奥国分寺、国分尼寺などは、こうした東北支配の進められる中で建設された。当時の仏教は、個人の幸せを願うというよりは、国を守るという意味合いの強いものであった。また、中央政府の手で建設された多賀城や寺院などは、いずれも瓦ぶきの建物で、その瓦を供給するために、仙台市台原、小田原付近に数多くの瓦がまが作られた。

◆陸奥国分寺跡・国史跡（木ノ下）

現在の薬師堂を中心として、一辺250mほどの方形の広大な範囲を占める。天平13年(741) 聖武天皇の詔(みことのり)によって建設されることになった。その正確な完成年代は不明だが、奈良時代後半である。昭和30～34年の発掘調査の結果、全国的にも大規模な寺院であったことがわかった。現在の薬師堂は、伊達政宗が、もとの陸奥国分寺講堂跡に建設したものである。



陸奥国分寺跡

◆陸奥国分尼寺跡・国史跡（志波町一丁目）

陸奥国分寺の東600mの所にあり、国分寺とはほぼ同じころ建てられた。その正確な範囲は不明だが、現在、その中心部である金堂跡が整備されている。

時代	紀元	歴史事項
奈良	710	平城遷都
	724	多賀城設置?
	741	国分寺、国分尼寺造営の詔 陸奥国分寺、国分尼寺造営
	780	伊治公皆麻呂の反乱、多賀城陥落
平安	794	平安遷都
	797	坂上田村麻呂、征夷大将軍となる
	802	鎮守府を多賀城から胆沢城へ移す
	1051	前九年の役 (荘園乱立、武士団成立)
	1083	後三年の役
	1124	平泉藤原氏、中尊寺金色堂建立
	1189	源頼朝、藤原氏を伐つ

▶台原、小田原古窯跡群（台原、小田原、案内方面）

仙台市北部から東部にかけての丘陵部は、やきものにとって良好な粘土を産し、古くから窯(よう)業が営まれた。とくに、奈良、平安時代には、多賀城や陸奥国分寺に大量の瓦を供給し、東北屈指の窯跡群として知られてきたが、その半数は宅地造成などのため消滅した。



台原、小田原古窯跡群

▶栗園遺跡（中田町字栗園）

古墳時代末期から奈良・平安時代にかけての農村跡。昭和29年、畑の天地がえしの際、多量の土器が出土し、焼土なども検出された。土器は、炊飯具や食器などが主だが、時代的特色をよく示しているため、「栗園式」として著名な型式のものである。

〈解説〉庶民の暮らしについて

奈良時代にはいり、貴族たちは、多賀城や陸奥国分寺に見られるように、瓦ぶき、高床の建物に居住し、優雅な生活を送っていた。一方、多くの庶民の暮らしとはといえば、山上憶良の貧窮問答歌などにも歌われているとおり、租庸調などの重税にあえぎ、原始時代以来の掘立柱の竪穴住居に住み、貧しい暮らしを送っていたのである。



鎌倉・室町時代

1189年、源頼朝の平泉攻撃以後、東北地方も、ほぼ武家政権の支配下におかれることとなった。頼朝は、伊沢家景と葛西清重の二人を奥州総奉行に任命し、東北支配にあたらせた。その後、伊沢氏は留守氏と名のり、やがて岩切城に居をかまへ治政にあたった。この岩切城は、その後、足利将軍家のうちわ争いなどから、何度か争奪的になるなど、中世における東北の焦点であった。このほか、農村を支配して、力を貯えてきた地頭の館址(たてあと)が仙台にもあちこちで残っている。

一方中世には、新しい仏教の発展、普及がめざましかった。とくに従来の仏教は、公家貴族だけのものだったのに対し、新しい仏教は、武士や庶民にも受け入れやすいものであった。当時の寺院で現存するものはないが、当時の板碑(いたび)などが市内にかなり残っており、庶民の間の仏教の流行を物語っている。現在、市内で最古の板碑は、仙台市中田にある文永十年(1273)のものである。

農業生産をあげるために、新田開拓が活発に行なわれるのもこのころで、「在家」などの地名はその名残りである。

貨幣が、とくに商人などの間で活発に流通しはじめるのもこのころのことで、おもに宋銭などの中国からの輸入銭が使われた。

▶岩切城跡（仙台市岩切・利府町）

平泉の藤原氏征伐に功のあった伊沢(留守)家景が頼朝に陸奥留守職に任ぜられて館を構えたところで、留守氏代々の本拠となったところ。中世の典型的な山城で、昭和10年本丸、二ノ丸跡から多数の柱穴群が発見されている。

▶茂ヶ崎城跡（茂ヶ崎、大年寺山）

現在の大年寺山一帯は、14世紀中頃から1世紀以上にわたって、当時名取地方の領主であった栗野氏が居城していた中世の山城である。空濛(からぼり)、土塁などが現存する。

▶東光寺磨崖仏、古碑群（岩切字入山、東光寺内）

留守氏4代家政の妹の菩提寺が東光寺で、磨崖仏はその裏山山腹崖にあり、慈覚大師作と伝える薬王の像など7体が彫られて、俗に「穴薬師」とよばれる。境内に多数残る古碑群と同じく、鎌倉～南北朝時代のものと考えられる。表紙参照

▶蒙古の碑（燕沢字西山、善応寺境内）

由来のはっきりしない古碑で、「弘安五年筆者祖元(鎌倉幕府の祈願所であった円覚寺の開山)」の文字があるため、元寇で死んだ元兵供養のため建立されたものといわれる。

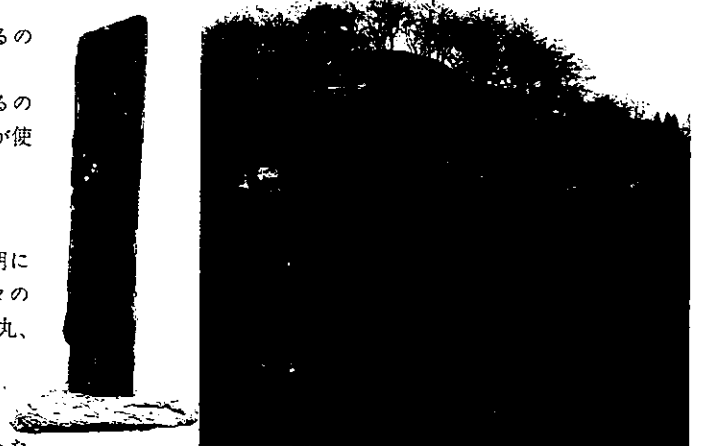
▶文永十年の供養碑（澱町）

兵衛太郎という人の極楽往生を願って建てられた供養碑で、文永10年(1273)8月のもの。阿弥陀三尊をあらわす種子などがえがかれ、鎌倉期の仏教信仰の状態をよく示す碑である。中田柳生にも、文永10年2月の碑(仙台最古)がある。

時代	紀元	歴史事項
鎌倉	1192	源頼朝、征夷大将軍となる
	1281	元寇(弘安の役)
	1333	北畠顕家、多賀国府に入る
南北朝	1334	建武新政
	1338	足利尊氏 征夷大将軍となる
	1350	岩切城合戦
	1392	南北朝合一
室町	1467	応仁の乱
	1536	伊達植宗、塵芥集をつくる
	1548	伊達晴宗、米沢城に移る
	1573	室町幕府滅ぶ

〈仙台の地名の由来〉

中世の国分氏の旧城にかけて千体仏があったため「千体」といわれ、それがいつの頃か雅名である「千代」と変り、さらに慶長5年(1600)の仙台城築城縄張り始めの際、政宗が漢詩よりきた「仙台」の文字をあてたのが最初といわれている。



文永十年の供養碑

岩切城跡

天然記念物(天然保護区域)

◎青葉山自然地域・国天然記念物(川内東北大学理学部植物園内)

仙台城背後にある、あまり人手の加わっていない密林地帯で、多種多様の動植物が生息、繁茂する。面積約50ヘクタール。植物では、コケ類137種、シダ類以上の高等植物666種、また鳥類は71種におよぶ。特にモミ林は北限のものとして貴重であり、リス、ノウサギが現在でも見られる。

◎蒲生海岸渡り鳥渡来地

シギ、チドリ、カモメ、グンカンドリなど渡り鳥も多種にわたっており、南北をゆき来する鳥達の絶好の中継基地となっている。またオオキアシシギの渡来が日本で最初に確認された貴重な地域であるが、近年の工業開発のため生息地が狭くなってきていることは残念。



安土桃山・江戸前期

戦国時代末期、豊臣秀吉に対する忠誠のもとに、仙台領内の統一を達成した伊達政宗は、慶長8年(1603)、岩出山から完成したばかりの仙台城に移った。同時に、仙台領内の中心部としての仙台城下の建設が開始された。今日の仙台市街の原形がこの時作られ、現在残っている町名、地名の中にも、この当時の町割りにもとづく地名がもっとも多い。こうした町割りは、決して無計画になされたものではなく、城下町としての一定の方針にのって進められた。すなわち、城の近くに、大身侍を住まわせ、市街中心に商人町や中級侍の屋敷町、そしてその外側に足軽町や寺町を配した。また、要所に、通り道の食いちがいや袋小路などの迷路を設け、戦略的な工夫もした。また、寛永5年(1628)政宗の隠居城としての若林城が完成した時、この付近にも町並みの建設が拡大した。

政宗は、このほか文化の保護育成ということにも意をもちいた。とくに、絵画、建築の発達、興隆にはめざましいものがあり、大崎八幡、国分寺薬師堂などは当時の貴重な遺産である。

また、進んで西欧の文物をとり入れるため、慶長18年(1613)支倉常長をヨーロッパに派遣したが、幕府の鎖国政策のため挫折した。

▶ 仙台城跡(青葉山)

別名青葉城ともいい、仙台藩主歴代の居城である。この地はもと国分氏の居城であったが、伊達政宗が従来住んでいた岩出山城が領内統治に不便であったので新たにこの地を選び、幕府の許可を得て慶長5年(1600)築城を開始し、慶長8年この地に移った。その建物は明治維新以後、破却もしくは焼失した。

▶ 大崎八幡神社・国宝(八幡四丁目)

慶長12年(1607)伊達政宗の造営になるもので、石の間造り(栴現造り)の典型として有名。社殿は、拝殿、石の間、本殿から成り総体黒漆塗り、彩絵と彫刻を施した豪華なもので、桃山文化の粋を誇る建造物。



大崎八幡神社

時代	紀元	歴史事項
安土	1590	豊臣秀吉、全国を平定
桃山	1600	仙台城築城開始、関ヶ原の戦い
江戸 (前期)	1603	徳川家康、幕府をひらく
	1607	大崎八幡神社、陸奥国分寺薬師堂完成
	1613	支倉常長、渡欧のため月の浦を出港
	1615	大阪夏の陣、豊臣氏滅亡
	1620	常長帰国 (鎖国体制の確立)
	1654	東照宮完成
	1671	寛文事件

▶ 陸奥国分寺薬師堂・国重要文化財(木ノ下)

政宗が慶長12年(1607)に旧国分寺講堂跡に建立したもので、素木造りの広壮大な堂宇は、同じ桃山時代の代表作といわれる大崎八幡神社の華麗な造りと好対照される。

本尊は薬師如来で、眷属の12神将だけは現在宝物館内に安置されている。

▶ 東照宮・国重要文化財(東照宮一丁目)

2代藩主忠宗が、承応3年(1654)に日光東照宮の家康の霊を分祀したもので、石鳥居、隨身門、拝殿、唐門、端麗(みずがき)、本殿などからなり、本殿内陣の家形厨子の中には家康の像がある。

▶ 慶長遣欧使節関係資料・国重要文化財(市博物館)

支倉常長が遣欧使節の帰途持ちかえたもので、支倉常長像、ローマ市民権証書、ローマ教皇パオロ五世像、ロザリオ、十字架像祭服など、20種類47点に及び、芸術や歴史の上で貴重な資料となっている。



慶長遣欧使節関係資料

▶ 長町入口の枡形と民家(長町一丁目)

仙台城下の建設にあたっては、要所に戦略上などの目的で見とおしをさえぎったりする枡形とか鍵形と呼ばれる、曲折した道路が作られた。河原町から広瀬町をわたってすぐの長町入口にそれがある。現在ある民家は、江戸末期か明治初期ころのものである。ほかには穀町と南材木町との境などにある。

▶ 経ヶ峰伊達家廟(霊屋下)

経ヶ峰は廟所として政宗自ら選んだ地で、政宗の瑞鳳殿の他、2代忠宗の感仙殿、3代綱宗の善応殿などがあつた。戦前瑞鳳殿は江戸初期最高の廟建築として名高く、国宝の指定を受けていたが、昭和20年の戦火により焼失、現在はさびれている。近く復原の予定。



江戸後期

仙台城下の建設、文化の振興に大きな役割を果たした政宗の代から、すでに仙台藩の財政は、朝鮮遠征、大阪の陣などの戦費、仙台城の建設などのため、苦しい状態におかれていた。元禄年間以後は、華やかさを好む風潮もあって、財政支出がかさんだ。その間、5代藩主吉村の改革などによって、一時財政建て直しなどが行なわれた。しかしその後は、水害、飢饉(ききん)のたびたびの発生などによって、仙台領内の庶民は、きわめて悲惨な生活を強(し)いられた。とくに、天明年間の飢饉は悲惨をきわめ、暴動が発生するなど不安な世情であった。当時の餓死者を弔う供養碑が市内のあちこちに現存している。

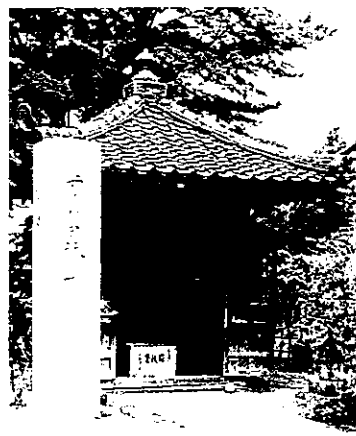
江戸末期、ヨーロッパ、アメリカなどから通商を求める動きが活発となり、従来、鎖国体制のもとにあった国内は混乱状態におちいる。しかし、すでに、こうした状態を予言し、警告していたのが、仙台藩の先覚者林子平であったが、時勢を見とおすことのできなかった幕府のため弾圧され、不遇のうちに一生を終えた。

江戸後期の仙台藩における工芸として注目すべきは堤焼、堤人形で、ともに仙台領内の特産物である。

▶ 林子平の墓・国史跡(子平町、竜雲院内)

江戸時代の寛政三奇人の一人で、号は六無斎。早くから識者と交わり、鎖国の世に「三国通覧図説」「海国兵談」を著わして海防の必要性和世界情勢を説くことに努めたが、理解されず禁錮になり、翌年国を憂いながら56才で没した。

墓碑は天保13年甥の珍平によってたてられたもの。



林子平の墓

▶ 芭蕉の句碑

薬師堂の西側、准胝観音堂の手前にある2m近い句碑。「あやめ草足に結ばん草鞋(わらじ)の緒」とあり、奥の細道の旅の途中、画工加右衛門から受けた親切に対し、感謝の気持ちをこめて詠じた句といわれる。

また榴ヶ岡天満宮の境内には「あかあかと日はつれなくも秋の風」という、芭蕉の句碑としては仙台最古のものがある。

時代	紀元	歴史事項
江戸 (後期)	1689	松尾芭蕉、奥州紀行のため来仙
	1695	榴岡釈迦堂完成
	1716	享保の改革
	1771	勾当台の学問所を養賢堂と改称
	1783	天明の大飢饉 仙台藩の財政窮乏
	1792	林子平「海国兵談」の件で処罰される
	1833	天保の飢饉
	1853	ペリー来航
	1868	戊辰の役起る (開国と尊王攘夷)

▶ 宮城県知事公館正門・県重要文化財(広瀬町)

旧仙台城門の一つで、大正の中頃第二師団長官舎の正門として現在地に移建されたものという。今のところ古図を見てもこの門かはっきりしないが、堂々としたその造りは、仙台城の面影を今に伝える唯一の遺構として大変貴重である。

▶ 堤人形

伏見、博多人形とともに日本三大土人形の一つ。元禄期に堤焼を始めた上村万右衛門が創始者といわれ、古型のものには錦絵に多く取材し、現代のものは童顔のものが多く純朴な風姿で愛されている。

▶ 元山上清水天明餓死者供養碑(八幡五丁目、国道48号線沿い)

天明3年(1783)天候不順のため全国的に大凶作となり、各地に飢饉が起き、暴動が頻発した。仙台領でも死者は25万人を数え、悲惨をきわめたという。その時の餓死者の供養と道知るべを兼ねて、天明5年の3回忌に造立されたものである。

天然記念物(地質)

☒ セコイヤ類化石林(霊屋下)

今から500万年前(第3紀鮮新世)に生育していたセコイヤ類が、突如降下してきた火山灰や軽石(浮石)の下に埋まり、化石となって残ったもの。100本近くの直立樹幹が完全に近い形で保存されている例は世界でも珍しい。



☒ 竜ノ口峡谷(青葉山)

60m余の急崖と蛇行した流路は震撼させるものがあり、仙台コロラドの名にはじない。貝化石や植物化石を多く産することから竜ノ口層の地層名の模式地となっており、亜炭層もあるため燃料として採掘されたり、埋木細工の原料とされてきた。



明治時代

明治維新後、新政府は、廃藩置県をはじめとして、次々と旧制度を廃し、新制度を打ち出した。これとともに、西欧からいろいろの文物がはいってきた。いわゆる文明開化であり、斬髪、廃刀などの生活習俗の変化をはじめ、建築などにも洋風が目立ち始める。最近解体された宮城刑務所集治監、旧東華学校本館である第二女子高校図書館、東六番丁教会などは、当時の流行の最先端をゆくものであった。これらの明治建築も、もはや老朽化と生活習俗の変化のため、次々と解体されつつある。私たちは、郷土の伝統を伝えるこれらの貴重な文化遺産を、ただしく後世に伝えなければならない。

➡ 第二女子高等学校図書館（連坊小路）

木造2階建て、瓦ぶき、板張りの代表的な明治洋風建築。明治19年（1886）東華学校本館としてスタート、使用者を転々と変え、87年を経て、昭和48年7月に老朽化のため取り壊された。県図書館に模型がある。

➡ 宮城刑務所房舎（古城二丁目）

最初、西南戦争の国事犯収容施設の宮城集治監として造られ（明治12年）、後に刑務所となった。中央の六角塔や放射状に突き出た洋風構造の奇異な形は“六角大学”と俗称され、仙台名所の一つであったが、昭和48年初めに惜しくも解体された。

➡ 叢塚（くさむらづか）碑（荒巻宇川平古街道沿い）

明治15年の夏、コレラが全国的に大流行し、仙台でも患者930名のうち410名が死亡した。そのうち荒巻に特設された焼場では276体が処理されたといわれ、その時の残骨と灰を集めた塚の上にきずいたのがこの供養碑である。



瑞鳳殿階段

時代	紀元	歴史事項
明治	1869	版籍奉還
	1871	仙台藩、仙台県となる 廃藩置県
	1872	仙台県を宮城県と改める
	1877	西南の役
	1879	宮城集治監が置かれる
	1887	東北本線上野―仙台間開通
	1889	仙台、市制を施行 明治憲法発布
	1894	市内に電灯ともる
	1900	市内に電話開通

➡ 松ノ井屋敷跡（片平一丁目）

片平丁電停前、広瀬川の崖上により景観に富む。江戸末期の伊達氏の別邸であるが、慶応4年（1868）戊辰戦争の際、薩長軍に対抗するため東北諸藩の家老が集って奥羽列藩同盟を結んだのがここである。現存の門はその遺構である。



第二女子高等学校図書館

文化財めぐりモデルコース

- A, 大崎八幡神社→竜雲院(林子平の墓)→荘厳寺(伝原田甲斐屋敷門)→光明院(伝支倉常長の墓)→輪王寺庭園
- B, 陸奥国分寺跡(薬師堂、白山神社、芭蕉の句碑、准胝観音堂)→国分尼寺跡→法領塚古墳→遠見塚古墳
- C, 青葉城址→市博物館→松ノ井屋敷跡→経ヶ峰伊達家廟
- D, 兜塚古墳→大年寺惣門→三神峯遺跡→上野遺跡
- E, 苦竹のイチョウ→善応寺横穴古墳群(蒙古の碑)→東光寺古碑、磨崖仏→岩切城跡

仙台市内の指定文化財

仙台市では、文化財保護の一環として、文化財の指定を進めている。現在市内には、国宝3・国定指定文化財23・県指定文化財28・市指定文化財25・計79件の指定文化財がある。

仙台市内にある指定文化財一覧表

(昭和55年11月現在)

種別	名称	所在地	所有者(管理者)	指定年月日	
(A) 建築物					
国指定重要文化財 国指定重要文化財 国指定重要文化財 国指定重要文化財 県指定有形文化財 県指定有形文化財 県指定有形文化財 県指定有形文化財 県指定有形文化財 県指定有形文化財 市指定有形文化財 市指定有形文化財	大崎八幡神社	八幡四丁目6の1	大崎八幡神社	昭和27.11.11(明36.4)	
	大崎八幡神社長床	八幡四丁目6の1	大崎八幡神社	昭41.6.11	
	陸奥国分寺薬師堂	木ノ下三丁目8の1	陸奥国分寺	明36.4.15	
	東照宮	東照宮一丁目6の1	東照宮	昭28.3.31	
	東照宮手水舎	東照宮一丁目6の1	東照宮	昭39.9.4	
	白山神社本殿	木ノ下三丁目9の1	白山神社	昭30.3.25	
	落合観音堂	四郎丸字落合	光西寺	昭44.8.29	
	大崎八幡神社石鳥居	八幡四丁目	大崎八幡神社	昭45.10.30	
	亀岡八幡神社石鳥居付鳥居額	川内亀岡町	亀岡八幡神社	昭45.10.30	
	宮城県知事公館正門(旧仙台城門)	広瀬町5の43	宮城県	昭46.11.9	
	旧仙台城板倉	岩切三所北16	日野財治郎	昭53.5.2	
	陸奥国分寺薬師堂仁王門	木ノ下三丁目	陸奥国分寺	昭50.4.30	
	善応寺開山堂	燕沢字西山	善応寺	昭43.2.15	
	旧第四連隊兵舎	五輪一丁目3の7	仙台市	昭53.6.16	
(B) 彫刻					
国指定重要文化財 県指定重要文化財 県指定有形文化財 県指定有形文化財 県指定有形文化財 県指定有形文化財 県指定有形文化財 市指定有形文化財	木造釈迦如来立像	八幡四丁目8の32	龍宝寺	明36.4.15	
	木造十二神将	木ノ下三丁目8の1	陸奥国分寺	昭34.8.31	
	聖観音像	新寺小路52	成覚寺	昭49.4.30	
	毘沙門天立像	木ノ下二丁目4の1	陸奥国分寺	昭50.4.30	
	不動明王立像	木ノ下二丁目4の1	陸奥国分寺	昭50.4.30	
	木造十一面観音立像	松岡町64	菊谷希和子	昭51.3.29	
	木造阿彌陀如来立像	新寺小路59	阿彌陀寺	昭55.5.31	
	木造釈迦如来坐像	北山一丁目14の1	輪王寺	昭51.7.1	
	(C) 絵画				
	国指定重要文化財 県指定有形文化財 県指定有形文化財 県指定有形文化財 県指定有形文化財 市指定有形文化財 市指定有形文化財 市指定有形文化財 市指定有形文化財	慶長遣欧使節関係資料	川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭41.6.11
宮城県庁門前図		榴ヶ岡5	宮城県(図書館)	昭48.1.16	
松島五大堂図		榴ヶ岡5	宮城県(図書館)	昭48.1.16	
松島図		榴ヶ岡5	宮城県(図書館)	昭48.1.16	
濱海曼荼羅圖付浄土清海曼荼羅略記袋中著		新寺小路52	成覚寺	昭49.4.30	
紙本着色伊達政宗像狩野探幽筆		川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭44.7.31	
菊絵和歌屏風		川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭51.7.1	
躰躰ヶ岡花見図屏風		川内三の丸跡	阿部和子	昭51.7.1	
菅井梅閑水停午翠図		川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭51.7.1	
(D) 書跡					
国宝 国宝 市指定有形文化財	紙本墨書類聚国史	片平二丁目1の1	国(東北大学保管)	昭27.11.22	
	紙本墨書史記	片平二丁目1の1	国(東北大学保管)	昭27.11.22	
	雲居禪師墨跡三幅対	茂庭字綱木裏山4	大梅寺	昭51.7.1	

種 別	名 称	所 在 地	所有者(管理者)	指定年月日
(E) 工 芸				
国指定重要文化財	太 刀	川内龜岡町62	龜岡八幡神社	大3.4.17
国指定重要文化財	白長覆輪太刀	台原四丁目8の16	杉山 寿	昭14.5.27
国指定有形文化財	銅 鐘	壺屋下23の5	瑞 鳳 寺	昭54.6.29
国指定重要文化財	短 刀	根岸町3の10	大竹左右吉	昭54.6.29
国指定重要文化財	伊達政宗所用具足	川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭54.6.6
国指定重要文化財	豊臣秀吉所用具足	川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭54.6.6
県指定有形文化財	刀	根岸町3の10	大竹左右吉	昭37.6.28
県指定有形文化財	薙 刀	中央二丁目	本郷栄太郎	昭34.8.31
県指定有形文化財	刀	国分町二丁目	佐藤文平	昭34.8.31
県指定有形文化財	刀	一番町三丁目11の8	中 川 高	昭34.8.31
県指定有形文化財	太 刀	一番町三丁目11の8	中 川 高	昭34.8.31
県指定有形文化財	三沢初子所用帯	川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭38.8.31
市指定有形文化財	銅造十二神将像掛額	川内三の丸跡	陸奥国分寺	昭51.7.1
市指定有形文化財	梵 鐘	向山四丁目	大 満 寺	昭52.3.1
(F) 考 古				
国指定重要文化財	埴輪武装男子半身像	台原四丁目8の16	杉山 寿	昭15.5.3
国指定重要文化財	硬玉製有孔玉器	台原四丁目8の16	杉山 寿	昭37.2.2
国指定重要文化財	埴輪円筒	片平二丁目1の1	国(東北大)	昭34.6.27
国指定重要文化財	陸前国沼津貝塚出土品	片平二丁目1の1	国(東北大)	昭38.7.1
国指定重要文化財	硬玉製磨製石斧	台原四丁目8の16	杉山 寿	昭48.6.6
(G) 歴 史 資 料				
県指定有形文化財	坤輿萬国全図	榴ヶ岡5	宮城県(図書館)	昭51.3.29
市指定有形文化財	渾天儀	桜ヶ丘公園1の1	仙台市(天文台)	昭45.2.23
市指定有形文化財	象限儀	桜ヶ丘公園1の1	仙台市(天文台)	昭45.2.23
市指定有形文化財	天球儀	桜ヶ丘公園1の1	仙台市(天文台)	昭45.2.23
市指定有形文化財	塵芥集(村田本)	川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭51.7.1
市指定有形文化財	晴宗公妾地下賜録柴	川内三の丸跡	仙台市(博物館)	昭51.7.1
(H) 金 石 文				
市指定有形文化財	芭蕉句碑	木ノ下三丁目	陸奥国分寺	昭51.7.1
市指定有形文化財	大淀三千風供養碑	木ノ下三丁目	陸奥国分寺	昭51.7.1
市指定有形文化財	芭蕉句碑	榴ヶ岡23	榴ヶ岡天満	昭52.3.1
市指定有形文化財	原町苦竹の道知るべ石	原町三丁目	仙 台 市	昭52.3.1
(I) 無 形 文 化 財				
県指定無形文化財	平 曲	国見三丁目9の31	館山甲午	昭44.12.12
県指定無形文化財	精好仙台平	長町一丁目8の6	甲田 綏 郎	昭51.3.29
(J) 無 形 民 俗 文 化 財				
県指定無形民俗文化財	大崎八幡神社の能神楽	八幡四丁目	大崎八幡神社の能神楽保存会	昭47.10.11
(K) 史 跡				
国指定史跡	陸奥国分寺跡	木ノ下二丁目、三丁目	仙 台 市 ほか	大11.10.12
国指定史跡	陸奥国分尼寺跡	白萩町	仙 台 市	昭23.12.18
国指定史跡	林子平墓	子平町	竜雲院(仙台市)	昭17.7.21
国指定史跡	遠見塚古墳	遠見塚一丁目	仙 台 市	昭43.11.8
市指定史跡	善応寺横穴古墳群	燕沢字西山	善 応 寺	昭43.2.15
市指定史跡	三沢初子の墓など	東九番丁58	仙 台 市	昭47.2.1
市指定史跡	刀工本郷国包各代の墓所	新寺小路88	善 導 寺	昭55.10.20
(L) 天 然 記 念 物				
国指定天然記念物	苦竹のイチョウ	銀杏町	永野章(仙台市)	大15.10.20
国指定天然記念物	朝鮮のメウ	古城二丁目	法務省(宮城刑務所)	昭17.9.19
国指定天然記念物	青葉山	荒巻青葉12番の内	国(東北大)	昭47.7.11
県指定天然記念物	東昌寺のマルミガヤ	青葉町	東 昌 寺	昭30.3.25
市指定天然記念物	壺屋下セコイヤ類化石林	米ヶ袋一丁目・三丁目・壺屋下	宮 城 県	昭48.8.6
市指定天然記念物	大梅寺のヒヨクヒバ	茂庭字綱木裏山4	大 梅 寺	昭52.3.1

編 集 後 記

仙台市教育委員会では、一般市民への文化財保護思想の啓蒙普及活動の一環として文化財パンフレットの刊行を行なってきたが、この「仙台のあゆみと文化財」はその第一集として昭和52年4月に当委員会社会教育課文化財係が編集・発行したものである。しかしながらこの小冊子は発行部数が少なかったこともあって長い間絶版となっていた。そこで今回これを復刻版として再版することになった。

ところで、これは文化財パンフレットの最初のものであったこともあって現行の形式とは若干異なった部分もあり、今回の復刻に当り初版の原形をそこなわない程度に現行の形式に促した形に改訂した。

なお、巻末にまとめた仙台市内指定文化財一覧表は昭和55年11月現在のものとした。

仙台市文化財パンフレット第一集

仙台のあゆみと文化財

昭和52年4月1日 初版発行

昭和56年3月31日 改訂版発行

編集・発行 仙台市教育委員会
仙台市国分町三丁目7-1

印刷 (株)東北プリント
仙台市立町24-24
TEL (63) 1166代